Model United Nations

大妻中学高等学校・渋谷教育学園渋谷中学高等学校共催

『国連海洋会議』　活動報告書

English Ver.

模擬国連 － 「中高生の学びが世界を変える」と信じて

島国に住む私たちにとって海の存在は身近に感じられます。海は世界中で繋がっており、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。そんな海についてもっと知りたい、学びたいという思いから始まった 2024 年冬の『国連海洋会議』。海洋の現状や問題を調べてみると、海には私たちが想像していたよりもはるかにたくさんの問題があるということがわかりました。多くの方のご支援のもと、会議当日には中高生による海洋に関する活発な議論が行われました。議論の様子や今会議の成果をご報告させていただきます。

模擬国連ガイドマップ

私たちが作成したガイドマップが模擬国連の世界をご案内いたします。

日　　時：	2024 年 12 月 26 日、27 日
場　　所：	大妻女子大学
参加者数：	39 校・約 400 名
議　　場：	第 3 回国連海洋会議
議　　題：	海洋の保全と持続可能な利用のためのグローバル行動計画

約 140 名の中学生も参加をしました

「私たちが望む海」の実現に向けた 3 つのミッション

今回の会議では、3つのミッションと、それを達成するための5つのゴールを設定しました。広大な海洋には、実に多種多様な課題が存在します。大使たちは、そうした複雑に絡み合う問題を包括的に捉え、「支援」といった一時的な対応にとどまらず、課題の根本に踏み込んだ本質的な議論に取り組み、決議案の作成・採択に取り組みました。

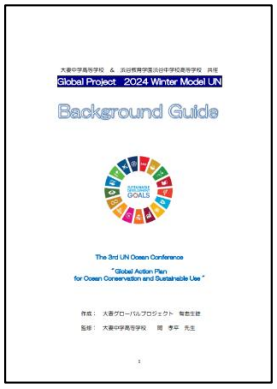
Mission 1	きれいで豊かな海洋環境を守り、「私たちが望む海」を次世代に引き継ぐ
Mission 2	全ての国と人々が公平に海洋資源や技術を共有し、その恩恵を享受する
Mission 3	「海洋の 10 年」の計画を促進し、実現する

5つの GOAL

1. 海洋プラスチック、排水／廃水という汚染源を低減する。
2. 海洋酸性化と海洋温暖化を食い止める。
3. 過度な、または環境に悪影響を与える海底採掘や海洋開発を止める。
4. 全ての国と人がクリーンで安全な海洋科学技術を使えるようにする。
5. 持続可能な漁業管理を実行する。

議題解説書（Background Guide）の作成

模擬国連では事前に参加者にその会議の前提や議題に関する基礎知識など、会議に参加するにあたって知っておく事項をまとめた議題解説書（略して BG）と呼ばれるものを共有します。
今会議では本校の中学３年生から高校２年生の生徒がオリジナルの BG を作成致しました。



議題解説書は以下の QR コードよりご覧いただけます（デジタルデータの場合は QR コードをクリックしていただければご覧いただけます）。

国連海洋会議を先取りして ― 中高生による BG 作成の挑戦

議題の選定にあたって最初に考えたのは、「日本の中高生が、実社会とつながりながら活発で有意義に議論できる課題は何か」ということでした。日本は島国であり、海洋と深く結びつきながら発展してきましたが、海洋問題を日々ニュースで耳にする一方で、実は「身近に見えてよく分からない問題」でもあります。だからこそ、海洋保全に対する課題意識を高めることに大きな意義があると考えました。また、半年後に国連海洋会議が実際に開催されることを知り、この会議を先取りすることで、「この会議を経験した」という実感を持ち、中高生が今後の国際議論にもより関心を向けるきっかけになればと考えました。

作業は、設定した３つの Mission と５つの Goal に基づき、課題ごとに担当を分担して進めました。毎週 1 回全体で集まり、進捗を共有しながら議論を重ねていきました。実際の国連海洋会議の流れを参考に、海洋課題の一部分だけでなく、全体像を俯瞰できるような BG を目指しました。BG 全体の一貫性を保ちつつ、各自の調査の中で必要だと感じた情報や視点も積極的に盛り込み、最終的に全員が納得できる形に仕上げました。

この BG は、中高生にも読みやすく、かつ本質的な学びへと導くことを意識して作成しています。多くの皆さんに、海洋について知り、考えるきっかけとして活用していただければ嬉しく思います。

Special Thanks

本会議の開催にあたり、議題解説書を各所に共有し、本校がこの会議に込めた思いや意義をお伝えしたところ、多くの皆様より温かいご賛同と力強いご支援を頂戴しました。オープニングセッションには、内閣府・谷口礼史様、笹川平和財団・角南篤様、東京大学大学院・山本光夫教授、最終日のクロージングセッションでは外務省・石川知仁様よりご講演とメッセージを賜りました。海洋問題に深い見識をお持ちで、国際社会の第一線でご活躍されている皆様から直接お話を伺うことができたことは、参加者にとってかけがえのない学びとなりました。心より感謝申し上げます。

内閣府・谷口参事官を囲んで

会議レポート　会議監督の視点より

今会議では、先進国、発展途上国、新興国という３つの大きなグループに分かれ議論が始まりました。各国の優先する政策などをもとに、円滑な議論進行のため、発展途上国は、アフリカや島嶼国という小さいグループを作り、議論を進めていました。

今回は、議論するべきゴールが５つ設定されていたこと、また、２ 日目に提出する決議案ではこの５つのゴールを全てカバーしたものであることが受理の条件でした。そのため、限られた時間の中で、どのように円滑に議論を進めていくかということが重要となりました。会議 １日目が終了した段階では、あまり議論が進んでいないゴールもあり、議論が十分でない箇所やグループの対立軸も明確でした。例えば、発展途上国はどこまで支援を求めるのか、そして先進国がどこまでその支援に応えることができるのかという対立軸が明確でした。具体的なゴールに関して、例えばゴール３の「海底採掘の規制」では、海底採掘により利益を得ている国と、環境保全に積極的な国の間でどこまで規制を求めるかという点で大きな対立が見られました。各議場で、ワーキングペーパーは 2~4 本程度提出されました。

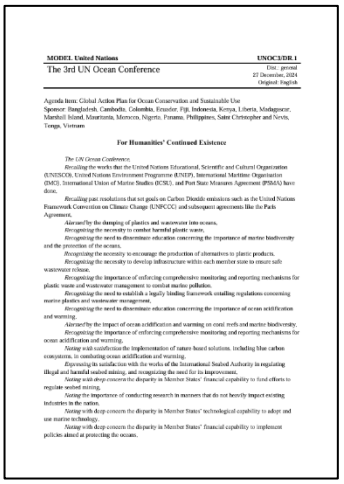
会議２日目の予備投票では、各グループのワーキングペーパーに対する各国の立場が明確になり、予備投票の結果を踏まえ、各グループの議論が進んでいるように見受けられました。どの議場でも、コンセンサス合意を見据え、外交が議場の橋渡し役となりながら、内政では各グループが国益やグループ益をぶつけ合い、全ての国の同意を得ることを目標に活発に議論が行われていました。私が監督を務めた A 議場では、決議案提出時刻ギリギリまで白熱した議論は続き、２本の決議案が提出されましたが、残念ながらどちらの決議案も同意できない国がいたため、可決されることはありませんでした。 海洋問題に関する議論が進展し、各国のスタンスや対立軸が明確になった点が今会議の意義となったと言えますが、国際社会に、２ 日間の結果を決議案として示すことができなかった点が、非常に惜しかったと感じます。

～ このような決議案が採択されました ～

海洋保全の国際規範を決めるこの重要な会議は、コンセンサス（全参加国の賛成）が決議案の採択条件でした。各国が立場や国益を対立させながらも、１つのゴールに向けて話し合い、採択された価値のある決議案となりました。

一般議場

日本語議場



MODE1 United Nations — UNOC3/DR.1

The 3rd UN Ocean Conference

Dist.: general
27 December, 2024
Original: English

Agenda Item: Global Action Plan for Ocean Conservation and Sustainable Use
Sponsor: Bangladesh, Cambodia, Colombia, Ecuador, Fiji, Indonesia, Kenya, Liberia, Madagascar, Marshall Island, Mauritania, Morocco, Nigeria, Panama, Philippines, Saint Christopher and Nevis, Tonga, Vietnam

For Humanities' Continued Existence

The UN Ocean Conference,

Recalling the works that the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO), United Nations Environment Programme (UNEP), International Maritime Organization (IMO), International Union of Marine Studies (IUMS), and Post-State Measures Agreement (PSMA) have done,

Recalling past resolutions that set goals on Carbon Dioxide emissions such as the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) and subsequent agreements like the Paris Agreement,

Alarmed by the dumping of plastics and wastewater into oceans,

Recognizing the necessity to combat harmful plastic waste,

Recognizing the need to disseminate education concerning the importance of marine biodiversity and the protection of the oceans,

Recognizing the necessity to encourage the production of alternatives to plastic products,

Recognizing the necessity to develop infrastructure within each member state to ensure safe wastewater release,

Recognizing the importance of enforcing comprehensive monitoring and reporting mechanisms for plastic waste and wastewater management to combat marine pollution,

Recognizing the need to establish a legally binding framework entailing regulations concerning marine plastics and wastewater management,

Recognizing the need to disseminate education concerning the importance of ocean acidification and warming,

Alarmed by the impact of ocean acidification and warming on coral reefs and marine biodiversity,

Recognizing the importance of enforcing comprehensive monitoring and reporting mechanisms for ocean acidification and warming,

Noting with satisfaction the implementation of nature-based solutions, including blue carbon ecosystems, in combating ocean acidification and warming,

Expressing its satisfaction with the works of the International Seabed Authority in regulating illegal and harmful seabed mining, and recognizing the need for its improvement,

Noting with deep concern the disparity in Member States' financial capability to fund efforts to regulate seabed mining,

Noting the importance of conducting research in manners that do not heavily impact existing industries in the nation,

Noting with deep concern the disparity in Member States' technological capability to adopt and use marine technology,

Noting with deep concern the disparity in Member States' financial capability to implement policies aimed at protecting the oceans,

会議を振り返って　～対立を越えて、共に歩むために～

大会事務局長　大妻高等学校３年　隅田　凛

模擬国連を通して得られるものは、実に多くあります。なかでも特に大きいのは、国際問題を多様な視点から見つめ直すこと、そして得た学びを次の行動へとつなげる原動力を得ることだと、私は考えています。

私はもともと国際問題に関心があり、世界の格差や課題の本質をもっと深く知りたいという思いから、模擬国連の活動を始めました。会議への参加を重ねる中で、自分の知っている国際問題の背景にある対立や因果関係に触れられたことは、私にとって大きな財産となっています。

今回の「海洋の持続可能性」という議題においても、発展途上国と環境先進国の間にある開発をめぐる対立や、客観的かつ平等な指標の設定の難しさ、プラスチック使用に関しては規制の有無ではなく、「どのような制限方法や現実的な工夫が可能か」といった視点の重要性を実感しました。このように、国際問題を多角的に捉えることの大切さを深く学びました。また、多くの国際問題では、マイノリティや立場の弱い人々が取り残されている現状があります。そのことに対して迅速かつ本質的に対応する必要があることを強く感じました。

模擬国連の会議では、「それでは現実は変わらない」「行動を起こさなければならない」「まずは現実的な啓発から」といった会話が多く交わされます。こうしたやりとりからも分かるように、国際問題は非常に切迫した課題であると同時に、各国が足並みを揃えることの難しさも常に突きつけられます。だからこそ、課題の複雑さや困難さを受け止めながらも、「各国がそれぞれにできることは何か」「自分には何ができるか」を真剣に考え、最初の一歩からでも前に進もうとする姿勢が大切だと感じました。そして、私自身、その前進のためのエネルギーを得ることができました。

今回開催した国連海洋会議では、議題の根本的な原因や因果関係、そして私たちが普段あまり意識していない海洋問題の現状や側面について学びを深められるよう、プロジェクトメンバー一同で議題解説書の作成や会議運営に取り組んできました。また、「行動を起こす」という点においては、コンセンサス採択の形式をとり、大使の皆さんが建設的に、諦めることなく、海洋の持続可能性に向けた一歩を踏み出そうと真剣に議論してくださいました。

この会議を通して得られた学びを今後も共有し、発信していくことで、より多くの人が国際問題を多角的に考え、学び合う輪が広がっていくことを願っています。そしてそれが、少しずつでも国際問題の解決につながっていくことを、私は強く信じています。

今年も議長団を一緒に務めた渋谷教育学園渋谷中学高等学校の皆さんとともに。会議終了後の笑顔です。

活動報告ビデオ

実際の会議の様子を報告動画としてまとめました。緊迫感ある交渉の様子や実際にどのような議論をしていたのかをご覧いただけます。
（音楽が流れますのでご注意ください）

報告書･報告動画作成：大妻高等学校グローバルプロジェクト
監修：関　孝平　先生